

教材としての映画

－授業における映像資料の活用をめぐる－

社会学部社会学科准教授 沼尻 正之

1 はじめに

まずは苦い思い出をひとつ。大学教員になりたての頃のこと、細かいシチュエーションはもう忘れてしまったが、おそらくはゼミのような授業で、学生に映画を見せることになった。選んだのは、学生時代からお気に入りの作品だった、ジム・ジャームッシュ監督の「ストレンジャー・ザン・パラダイス」。私自身は、いわゆるシネフィルではないけれども、学生時代はそれなりに幅広く内外の映画を見て、当時は必読とされた雑誌『リュミエール』を全巻揃えたりする程度には、映画ファンだった。それで、学生に何を見せるか、それなりに真剣に考えた。その結果が「ストレンジャー・ザン・パラダイス」。おそらくはハリウッドのブロックバスター映画ばかり見ている学生に、「本当の映画」を見せて啓蒙しよう、そんな青臭い考えだったと思う。

その結果何が起こったかという、映画の中盤にさしかかるころまでに、学生が全員熟睡するという、非常に残念な事態だった。この経験は、私にいろいろなことを感じさせ、また考えさせた。まずは何よりも腹立たしかった。せっかく素晴らしい作品を見せてやっているのに、寝るとは何事だ、この映画のよさが分からないのかと。しかしそれと同時に、反省する気持ちもまた沸き起こってきた。「ストレンジャー・ザン・パラダイス」は、私自身は傑作と信じて疑わない作品だが、しかし万人受けする作品かという、必ずしもそうは言えない。というか、むしろ、高く評価するのは一部の人と言った方が正確だろう。そもそも万人受けする作品であれば、「タイタニック」級のヒット作になっていても、おかしくないはずであるが、この作品が興行収入的な面で成功したという話は聞いたことがない。

ところで、腹立たしさの裏側には、悲しさがあった。それもそのはず、自分が「いいよ」と薦めているものを、全否定されてしまうわけだから、傷つかないはずがない。そういうわけで、授業などで学生に映画を見せる場合には、よくよく作品を選ばねばならないということを、大学教員としてのキャリアのはじめに学んだのだった。

ともあれ、映画など映像資料は、うまく活用すれば、授業内容を補完するものとして、きわめて有用なものとなることは確かであろう。この苦い経験の後、私はむしろ映像資料をうまく活用する

にはどうすればよいか、試行錯誤を始めることとなった。その後しばらくして、教育研究所の所員となったことは、この点に関して非常に大きな経験となった。教育研究所でのさまざまな活動を通して、教育の方法論について多くの人々から学ぶ機会を持つことができたからである。

本稿では、私が映画などの映像資料を授業で用いるに際して、どのような工夫をし、どのようにうまくいったりうまくいかなかったりしたか（すべて主観ではあるが）、書き記していきたいと思う。なお、この場合の映像資料には、映画だけでなく、各種のドキュメンタリー作品なども含むものとする。あまり長いスパンで書く余裕もないので、2012年度と2013年度の2年間について、担当している講義を例として述べていきたい。それぞれの授業で用いた映像資料のリストについては、巻末の〈資料〉を参照のこと。

2 教材としての映画

まず映画について。この2年の間に、私が担当した講義は、「現代社会の諸問題 A・B」（1年生以上、Aは社会学部・心理学部学生向け、Bはそれ以外の学生向け）、「宗教文化論」（2年生以上）、「グローバル化の社会学」（3年生以上）、「現代社会論」（3年生以上）である。

2-1 現代社会の諸問題

1年生向けに、様々なテーマを取り上げる授業だが、テーマの一つに「現代日本における司法改革」がある。具体的には、裁判員制度のことなどを論じている。このテーマとからめて、2012春学期と2013秋学期は、三谷幸喜脚本・演出の舞台劇「12人の優しい日本人」（2005年上演）を用いた。

実を言えばこの選択は、次善の策という色合いが強い。というのは、この作品は、裁判員制度を扱ったものではなく、もし日本にアメリカ流の陪審員制度があったら、という架空の設定を元に作られた作品だからである。この舞台劇の初演は1990年で、三谷が劇団・サンシャインボーイズのために書き下ろした脚本であり、翌年この作品は、「桜の園」などを撮った中原俊監督により映画化され、その後も舞台で何度か再演されている。今回取り上げたのは、2005年にまったく新しいキャストで再舞台化されたバージョンである。ちなみにこの作品はDVD化されておらず、2012年にWOWOWで放送されたのを、私が個人的に録画して持っていたものである。

本来ならば、裁判員制度を描いた作品を選べばいいのだが、制度自体の歴史が浅いこともあり、裁判員制度ものの映画には、あまり良作が見つからなかった。そこで比較対象として取り上げる予定のアメリカの陪審員制度を扱った映画をと思い、三谷の上記作品のヒントにもなったとされる名作「十二人の怒れる男」などが候補に挙がったが、やや古いなどの難点があり、その他のアメリカ裁

1) ゼミなど演習系の授業でも映像資料を用いるが、今回は講義のみに話をしほりたい。

判映画も検討したが、結局少々異例な作品ではあるが、その面白さを重視して、三谷作品を選んだのである。その際、映画版は DVD 化もされており、比較的入手が容易であることから、なかなか見る機会の少ない舞台版（こちらの方が出演者の顔ぶれも豪華なので）を選んだ次第である。本作は、学生にもおおむね好評で、その後陪審員制度と裁判員制度の違いを説明する際にも、非常に有用であった。

これとは異なり、2013 春学期は、「桐島、部活やめるってよ」を利用した。というのも、ちょうどこの頃、体罰問題やいじめ問題など、学校関係の事件が社会問題化しており、その中でも特に「スクールカースト」問題がクローズアップされていたからである。「桐島〜」は、まさにこうした問題を扱った佳作であった。2012 年度の日本アカデミー賞をはじめとする映画賞を、ほぼ総なめにした感のある本作は、間違いなく良作であったから、ぜひとも学生にも見せたいと思ったという気持ちもあった。実際、この作品は学生からの評判も非常によく、多くの学生から、面白いだけでなく、いろいろ考えさせられる映画だったという感想を得た。

このスクールカースト問題は、当初扱う予定がなく、急遽取り上げたテーマであったが、かりにもタイトルに「現代社会」と入っている授業であるからには、ある程度予定を変更しても、その都度の社会問題を取り上げるべきだと考えて、こうした選択を行った。結果として、この選択は、それほど誤ったものではなかったように思う。

2-2 宗教文化論

これは、日本や諸外国の宗教文化を扱う授業であるが、テーマの一つとして、「映画で見る宗教文化」というものを設定している。特に、ハリウッド映画に現れたキリスト教のモチーフを詳しく論じているため、そうしたテーマにふさわしい作品を何か一つ見ることにしている。ここ数年は基本的に「アイ・アム・レジェンド」を見ることが多く、2012 年もこの作品を上映した。この作品がどのような意味で示唆的かということについては、以前論文に書いたことがあるので、詳しくはそちらを参照していただきたいが²⁾、要点としては、この作品のエンディングが改変されたことの中に、ハリウッド映画の宗教性というもの、色濃く反映されているということであった。この作品を取り上げる際には、必ず一般公開版（結末部分が改変され一般公開されたバージョン）と、オリジナル版（最初に監督が完成させたが、一般には公開されなかったバージョン）の双方（異なるのはエンディング近くの 10 分ぐらいなので、後者についてはその改変箇所だけだが）を、見てもらうことにしている。この改変の背後にあると考えられる事情を解説した上で、オリジナル版の方を高く評価する旨語をしているのだが、これに関しては学生の大半が同意見であるとの感想を寄せている。

さて、2013 年度についても、当初予定していたのはこの作品であったが、実際に見てもらった

2) 沼尻正之「ハリウッド映画の中の「聖なるもの」-映画「I am legend」エンディング改変の理由を考える」(『追手門学院大学社会学部紀要』No.5, 2011)

のは「ライフ・オブ・パイ」であった。なぜなら、2013年1月に劇場でこの映画を見たとき、この作品もまた、映画と宗教との関わりを考える上で非常に重要な作品であると感じたからである。学生たちに見てもらうのに、できるだけ新しい話題作を見てもらいたいという思いは常にある。「ライフ・オブ・パイ」は、その意味でまさにうってつけの作品であった。「ライフ・オブ・パイ」は、未見の人にとっては、おそらく単なる少年の冒険を描いた作品だと思えるだろう。しかし、実際には、この作品は宗教に関する多くのコノテーションを含んだ、非常に深い作品になっている。私自身も、何度か見返すたび、新たな意味を見出すという体験をした作品だったが、映画を見せた後に、詳細な解説を行った結果、自分で見ただけでは分からないことを知ることができたという感想を、多くの学生から得ることができた。

2013年についてはさらに、(2012年度は時間的に取り上げられなかった) アメリカの市民宗教の問題を扱い、その関連で、アメリカのいわゆる「大統領映画」のことを論じたため、「インデペンデンス・デイ」や「エアフォース・ワン」の印象的なシーンを紹介するということを行った。2013年は、「ホワイハウス・ダウン」や「エンド・オブ・ホワイハウス」などが公開された、まさにアメリカ大統領映画の当たり年でもあったため、比較的タイムリーな話題を取り上げることができたのではないかと考えている。

2-3 グローバル化の社会学

この科目は、2012年度から始まったものであり、手探り状態であったため、上映候補の作品はいくつかあったものの、結局初年度は映画を見ることはできなかった。その反省もあり、2013年度は、マイケル・ムーア監督のドキュメンタリー映画「シッコ」を見てもらうことにした。2013年度前半は、グローバル化と関連する話題として TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が注目を浴びており、医療の分野は重要な焦点のひとつとされていたから、その意味で時宜を得たものだったと言えるであろう。「シッコ」は、アメリカ型医療制度の矛盾と、その他いくつかの国々の優れた医療制度を比較しながら紹介する内容の作品であり、医療分野のグローバル化がアメリカ型のものになってしまうことの危険性を、言葉で説明するよりも、はるかによく理解してもらうことができたと考えている。

2-4 現代社会論

今回調べてみて意外だったのは、現代社会論については、2012年度、2013年度ともに、映画は1本も見えていないということだった。上映候補作品はいろいろあったのだが、時間的な余裕がなかった。この講義では、ここ2年間は、情報化の進展が社会や人間に与える影響について考えてきたのだが、このテーマについては、映画よりもむしろドキュメンタリー作品の方に見るべきものが多く、映画を見ている時間がなかった。やむを得ないこととはいえ、もう少し余裕を持った時間配分を心掛けるべきだと、改めて思った次第である。

3 教材としてのドキュメンタリー

この章では、ドキュメンタリーやノンフィクションといったジャンルの映像資料について取り上げたい。大学の講義では、むしろこちらの方が、利用する資料としてはオーソドックスだとも言えるであろう。ただし、講義内容にうまく適合したドキュメンタリー作品を見つけるのは、それほど簡単ではない。

さらに、多くが DVD などでもソフト化される映画とは異なり、テレビで放映されたドキュメンタリーなどは、ごくまれにソフト化されるものもある³⁾が、多くのものは、後になって入手することが非常に困難である。もっとも、現在では、インターネット上の各種動画投稿サイトなどに、動画がアップロードされていることも多く、以前よりは、過去に放送された番組を探すことは容易になった。また近年、NHK でも民放でも、オンデマンドで過去に放送された番組をオンライン販売する動きも進んでおり、そうしたかたちで探せるものも多い。とはいえ、まだまだ過去のドキュメンタリー作品の多くが入手困難であることに変わりはない。

というわけで、結局のところ一番確実なのは、自分で録画しておくことだということになる。私自身は、ずいぶん以前から、とりあえずテレビで放送されている「それっぽい（授業で使える）」番組は、すべて録画して保存するということを行っている。自宅の機材の関係で、2007 年頃を境に、保存メディアは VHS ビデオテープから DVD に変わったが、それらをもとにいわば個人的なアーカイブを作り、またその情報をパソコンでデータベース化している。

とりあえず全て録画するというと、非常に効率が悪いように聞こえるかもしれない。実際その通りなのだが、その時々「自分の関心のあるもの」や「授業で使えると思うもの」に限定して録画しているだけでは、後に必要になるものを保存しそびれる可能性がある。実際、録画した時には全く必要性を感じていなかったが、後に必要となり、自分が過去にそれを録画していて幸運を感じたことが、何度もある。最近では、Twitter など SNS で興味深い内容の番組の評判が広まることがあるが、既に放送が終わったものを、後から探すのは非常に大変である。というわけで、結局できるだけすべて保存する⁴⁾という方針をとることになった。このやり方は非常にコストパフォーマンスが悪く、おそらく録画したもののうち、実際に授業で活用できるのは 1/100 程度（おそらくはそれ以下）ではないかと思う。しかし、当面他に方法がない。

ただし、最近では他にも役立つ手法がある。例えば本学では総合情報教育センターが、過去 1 週間の地上波・BS の全番組を HD に保存しており、依頼をすればダビングをしてくれるというサービスを行っている。録画しそこなった番組で、放送後比較的早い段階で保存の必要性を知った（ネ

3) 例えば、「グーグル革命の衝撃」などがそれにあたる。これは、もともと NHK スペシャルとして放送されたものだったが、反響が大きかったため、DVD 化された。

4) 時折自分でも少々病気ではないかと思うことがある。

ット上の評判などにより）ものについては、これを利用することで、放送後でも保存が可能になる。これは非常に便利なサービスであり、私自身は、かなり頻繁にこのサービスを利用させてもらっている。

3-1 現代社会の諸問題

この授業では、裁判員制度関連、地球温暖化問題関連、著作権関連のドキュメンタリーを見せている。ただし、NHK スペシャル「木嶋被告 100 日裁判」については、裁判員の苦悩がよく表れている良質の作品であったが、2013 年秋学期の時点では、既に話題として古くなった感があったので、敢えて省くことにした。

BS フジ・プライムニュース「太陽に異変！地球寒冷化の可能性」は、地球温暖化への懐疑論を正面から取り上げた珍しい番組であるため、今のところ必ず利用する作品となっている。なお、例えばこれなどは、放送後に評判を聞き、総合情報教育センターにダビング依頼をして入手した番組である。

NHK スペシャル「変革の世紀③知は誰のものか」は、ネット時代の著作権の問題を考える上で非常に示唆的な作品なので、必ず利用しているが、2002 年に放送されたものであり、いかんせん古さは隠せないのだが、今のところ他にかわるものが見つからないので、次善の策として利用を続けている。

その他巻末のリストを見ると、「ジョージ・ポットマンの平成史」や TED 動画などを利用した学期があることが分かる。「ジョージ・ポットマンの平成史」は、2011 年から 2012 年にかけて、テレビ東京（関西ではテレビ大阪）で深夜に放送された番組（全 24 回）で、社会学的に非常に興味深い内容を扱っているのだが、深夜番組ということもあり、授業で流すのにややふさわしくない表現が含まれている回が多いのが難点である。2012 年春に上映した「てへべろと就活過剰自己 PR 社会」は、最終回放送分で、非常に興味深い内容であり、また授業で使える範囲内に収まっていると判断して、利用した。なお、「ジョージ・ポットマンの平成史」は、現時点で 4 枚の DVD が発売されている（未収録回もある）。

3-2 宗教文化論

この授業は、他の授業と比べて、ドキュメンタリー作品を利用する数が少ない。理由は簡単で、適当なものが見つからないからである。「宗教とサブカルチャー」を論じる際に、みうらじゅんが監修した「仏像通」という作品を利用しているが、これは 1998 年のものであり、VHS ビデオテープで販売されていたものである。今年になって、近年イスラム圏から観光客を呼び寄せようとしている業界が、ハラール食品導入に向けて動き出したことをレポートした「ガイアの夜明け」や、縁切り神社として知られる、京都の安井金比羅宮を取り上げたドキュメンタリーなどが、上映候補作品に加わった。前者は「食と宗教」について、後者は民俗宗教の日本的なあり方を知ってもらった

めに、非常に有用な作品であり、今後も機会があれば利用したいと考えている。

3-3 グローバル化の社会学

この授業では、比較的多くのドキュメンタリー作品を使用した。ただ巻末のリストを参照していただければ分かる通り、グローバル化の問題を総論的に扱った作品は、比較的古いものになってしまっている。2012年にこの授業を始めるにあたり、調べていて分かったことだが、グローバル化というものの自体が対象となったドキュメンタリーは、主に1990年から2000年頃までに作られている。グローバル化ということが一般に言われるようになったのは、冷戦が終結した1990年頃であり、当時はグローバル化自体を考えることがブームでもあったのであろう。その後もグローバル化をテーマにしたドキュメンタリーは作られているが、それらはどちらかといえばグローバル化のサブジャンルを各論的に扱うものが多い。

取り上げた作品の中で、特に学生から評判がよかったものとしては、例えば、NHKスペシャル「追跡！世界キティ旋風のナゾ」や、未来世紀ジパング「LINE特集」などがある。グローバル化概論のような内容のドキュメンタリーは、授業としてはどうしても必要であり、最初の方で取り上げておく必要はあるのだが、やはり学生にとって「面白い」ものではないようだ。それよりはむしろ、日本文化の海外輸出を扱った前者や、近年急速に普及しつつあるスマートフォン・アプリ「LINE」の海外戦略などを扱った後者など、具体的な事例を扱った作品の方が、興味を惹くようである。

3-4 現代社会論

「現代社会論」は、ずいぶん以前から私が担当している科目であるが、2012年に上記「グローバル化の社会学」という新しい科目を担当することになったため、それを機会に内容を刷新し、「情報化の進展は現代の社会にどのような影響を与えているか」というテーマを扱うものとした。このジャンルは、社会の中でも今まさに大きく変わりつつある部分であるため、作られるドキュメンタリー作品も非常に多い。それゆえ、上映候補作品は数多く、しかも毎年それがかなりの勢いで増加している。

取り上げた作品を見ると、どれも非常に新しいものであることが分かる。2012年度を見ると、2011～2012年のものばかりであるし、2013年度について言うと、クローズアップ現代「世界を監視するアメリカ～スノーデン氏告発の衝撃」、同「あなたの顔から個人情報が流出する～広がる顔認証技術」、同「ウェアラブル革命～着るコンピュータが働き方を変える」、BS世界のドキュメンタリー「あなたは利用条件に同意する？～ネットと個人情報」の4つが2013年放送のものである⁵⁾。それだけ、情報化の問題を扱ったドキュメンタリーが数多く放送されているということであ

5) ここにも3つ挙がっているが、NHKの「クローズアップ現代」は、同時代的なテーマを素早く取り上げることといい、時間が約30分とコンパクトであることといい、授業の資料として用いるのに、非常に

り、この傾向は今後も続くことが予想される。このことは、授業の準備をするにあたり、毎年かなりの割合で内容を刷新していかなければならないことを意味している。大変なことではあるが、テーマの性質上、やむを得ないことだと言えるだろう。

4 おわりに

ここまで大学の講義における映像資料の活用方法について、私自身の過去2年の授業を例としながら論じてきた。まず映画について、現状私自身は半年の講義につき、約1本の映画を見せているわけだが、本来ならもっと多くの映画を見てもらいたいと思っている。というのも、平日頃学生たちと話していて、今の学生は、自分の学生時代と比べて、明らかに映画を見ていないと感じるからである。娯楽が多様化した現在、それは避けがたいことであるとしても、やはり優れた映画を見ることは、それ自体非常に貴重な体験であるから、授業というかたちでも、なるべく多くの良作を学生には見てもらいたいと思っている。

ドキュメンタリーやノンフィクション作品については、具体的に授業内容を補完する資料として、積極的に活用しており、その収集には、個人的にかなりの労力を費やしている。これに関して最後に少々提言めいたことを言わせてもらうならば、大学として、テレビで放送された番組の中で、授業の教材として使えそうなものを体系的に収集・保存してはどうだろうか。今現在私は個人的にできる範囲でそうしたアーカイブを作っているが、勝手にやっておいて言うのもなんだが、けっこう大変だし、やはりどうしても限界がある。

おそらくは、著作権の問題などクリアすべき課題はあるのだろうが、大学がそうした方向で努力をすることは、教学面で非常にプラスになることなのではないだろうか。教育研究所という組織は一旦幕を下ろすことになったが、それに変わる役割を果たす部署が、こうした課題を担ってくれることを期待している。

【資料】

〈映画〉

●現代社会の諸問題

A・2012 春：「12 人の優しい日本人」（舞台版）

A・2013 春：「桐島、部活やめるってよ」

B・2013 秋：「12 人の優しい日本人」（舞台版）

●宗教文化論

2012：「アイ・アム・レジェンド」

2013：「ライフ・オブ・バイ」

「インデペンデンス・デイ」（一部）、「エアフォース・ワン」（一部）

＼ 適している。また「BS 世界のドキュメンタリー」も、常に要チェックな番組枠である。

●グローバル化の社会学

2012：なし

2013：「シッコ」

●現代社会論

2012：なし

2013：なし

〈ドキュメンタリー〉

以下のリストについて。末尾の日付けは、その番組が放送された日付けを示している。また括弧内の数字は、その番組の時間を（例えば（1.51）であれば1時間51分の番組であることを）示している。（部分）とあるものについては、番組の全てではなく、関連部分のみを見せたことを意味している。

●現代社会の諸問題

A・2012 春 A：

NHK スペシャル「木嶋被告 100 日裁判」（0.51）2012/04/15

BS フジ・プライムニュース「太陽に異変！地球寒冷化の可能性」（2.00）2012/05/11（部分）

NHK スペシャル「変革の世紀③知は誰のものか」（0.50）2002/07/14

ジョージ・ボットマンの平成史「てへぺろと就活過剰自己 PR 社会」（0.29）2012/04/29

A・2013 春：

「リーガル・ハイ」2 時間 SP（スクールカースト問題）（部分）

BS フジ・プライムニュース「太陽に異変！地球寒冷化の可能性」（2.00）2012/05/11（部分）

NHK スペシャル「木嶋被告 100 日裁判」（0.51）2012/04/15

NHK スペシャル「変革の世紀③知は誰のものか」（0.50）2002/07/14

クローズアップ現代「パロディは文化？それとも違法？」（0.29）2013/02/19

B・2013 秋：

BS フジ・プライムニュース「太陽に異変！地球寒冷化の可能性」（2.00）2012/05/11（部分）

TED 動画：ジャック・アンドレイカ「有望な脾臓がん検査－なんとティーンエイジャーが開発」（0.20）

NHK スペシャル「変革の世紀③知は誰のものか」（0.50）2002/07/14

●宗教文化論

・2012：「仏像通」

・2013：「仏像通」

ガイアの夜明け「新戦略で外国人観光客を呼び込め」2012/11/27

ドキュ 72h「京都、縁切り神社」（0.26）2013/05/24

考えられない！禁断ワールド 2（1.55）2011/04/22（部分）町山、米福音派レポート

●グローバル化の社会学

・2012：

BS ドキュメンタリー「市民の 20 世紀（26）国境なき世界へ・進むグローバル化」（1.00）2001/09/04

NHK スペシャル「世界はどこへ向かうのか～問われるグローバル化」（1.00）2002/02/24

「ダボス会議 2012」（0.51）2012/03/09（部分）

ETV 特集・イスラム激動の 10 年③「ドイツ移民社会 “多文化主義” の敗北」（1.01）2011/11/20

NHK スペシャル「追跡！世界キティ旋風のナゾ」（1.16）2012/05/12

・2013：

BS ドキュメンタリー「市民の 20 世紀（26）国境なき世界へ・進むグローバル化」（1.00）2001/09/04

未来世紀ジパング「LINE 特集」（0.55）13/04/15

NHK スペシャル「世界はどこへ向かうのか～問われるグローバル化」（1.00）2002/02/24

「ダボス会議 2013」（1.51）13/02/11（部分）

WBS「イスラム・ビジネス特集～小谷真生子のマレーシア・レポート」(1.00) 2013/06/09 (部分)

• 2012 :

クローズアップ現代「ゲームが世界を変える!?～広がるゲーミフィケーション」(0.29) 2012/01/25

「グーグル革命の衝撃」

• 2013 :

クローズアップ現代「あなたの顔から個人情報流出する～広がる顔認証技術」(0.27) 2013/05/29

「グーグル革命の衝撃」

BS 世界のドキュメンタリー「あなたは利用条件に同意する？～ネットと個人情報」(0.51) 2013/09/24

TED 動画：ジェイン・マクゴニガル「ゲームで10年長生きしましょう」

アイ・アム・レジェンド (2007) ・監督：フランシス・ローレンス、原作：リチャード・マシスン、出演：ウィル・スミス他、ワーナー

桐島、部活やめるってよ (2012) …監督：吉田大八、原作：朝井リョウ、出演：神木隆之介他、バップ

シッコ (2007) ・監督：マイケル・ムーア、Happinet

ライフ・オブ・パイ／トラと漂流した 227 日 (2012) ・監督：アン・リー、出演：スラージ・シャルマ他、20 世紀 FOX

NHK スペシャル「グーグル革命の衝撃～あなたの人生を検索が変える」(2007)、ポニーキャニオン

舞台劇「12人の優しい日本人」(2005)・・・作・演出：三谷幸喜、出演：浅野和之、生瀬勝久、伊藤正之、筒井道隆、石田ゆり子、堀部圭亮、温水洋一、鈴木砂羽、小日向文世、堀内敬子、江口洋介、山寺宏一、2012年にWOWOWにて放送。

仏像通（1998）…出演：みうらじゅん他、ベネッセ